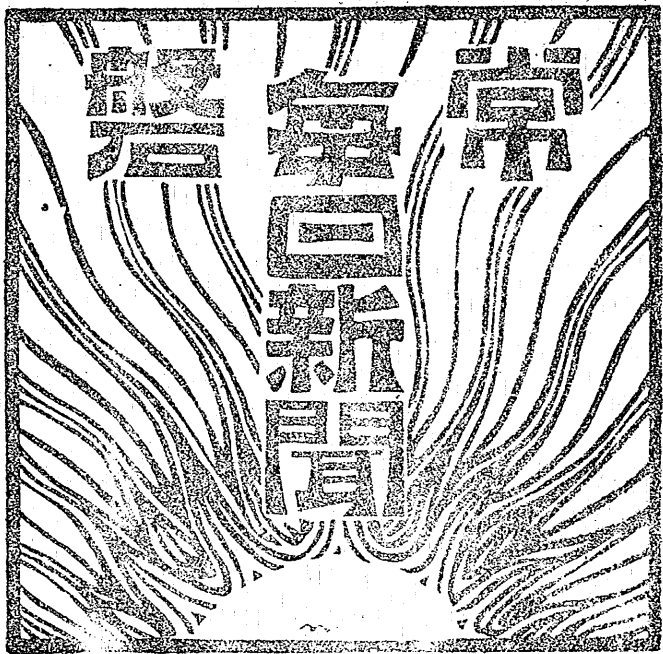


日刊 發行兼編輯人 川崎文治 本社下町番地(電話六三〇番) 印刷所 常盤毎日新聞社(電話六三〇番)



刊夕日七十月九

定額 一月五圓 三月十三圓 半年二十五圓 一年五十圓 廣告 五字一十二行 一字一圓 印刷 每日新聞社

**滿蒙經營の基調** 山本条太郎

以上滿洲に於ける製鐵、燃油、窒素肥料、曹達工業等の諸事業が豫期の如く發展をいたしましたならば、私の推算では年一億圓乃至一億五千萬圓の外國品を輸入防遏する結果を見るであらうと思ふ。そこで問題は成程一億圓か一億五千萬圓の外國品を輸入を防遏することに於けるけれどもそれは米國や英國に支拂ふ金を滿洲に支拂ふのであつて貿易

の對手方が變はただけであり、日本内地の經濟の上には利す所がないではないか又大豆であるとか農産物をそれだけ滿洲から餘計買ふと同じ道理であるから、國家經濟としては格別影響はないではないかといふ議論が一面には出る、併しながら之を微細に調べて見ると假りに今一億圓の大豆を吾々が滿洲から買つて來るといふことになれば農産物の價格は語を換へて言へば労働賃銀の結晶であるから、其中八千萬圓は支那の農民に拂ふ金であり、二千萬圓は運賃であるとか保険料とかで日本人の手に落ちるに

過ぎないで、日本人の經濟に利益す所は少い併し私共の計畫してゐる又現に進行しつつある假へば鐵であるとか油であるとかいふやうな企業との利益關係は支那人と日本人の分け前の歩合が農産物等とは恰々反比例になる

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める川崎巡文庫 (申込次第規則書進早)

可認物便郵種三第 (號十百四千一第) 聞新日每盤常

**夏服着荷**  
アルバカ・黒セル  
ボーラー・カシミア其の他  
平二なかや洋服店 電二〇三

美味評判 **子の手合**  
平町紺屋町(縣社通り)  
オノ部電話四六〇番

肉盤其まゝの高級ビクターレコード枚1,500錢 日本物と音楽 蓄音器針はビクター針先 35番 一度御試聴下さい

**會田時計店**  
平町四(電三六三)

右花道熟達ニ付初許授與候ニ付及御披露候也

昭和三年九月 平町白銀町(平劇場前) 古遠州流生花教授 **春月庵一櫻** 高橋さく

**「初許」授與者披露**

熊谷	松波	阿部	鈴木	高橋	門馬	鹽坂	川崎	山田	吉田
かほる	波隆子	部貞子	木ヨネ	橋榮子	馬良子	坂ソノ	崎トク	田喜千代	田キミ

**外科専門科** 入院應需

**上田外科醫院**  
平町南町 電話一二九番

**三益玉炭のお奨め**

三井物産會社が多年研究の結果專賣特許ヲ得タ最モ文化的ノ木炭代用ノ高級燃料デス

◎無煙無臭で火付が早く、火持ち良く、火力が強く日常のニヤキにはコンナ便な品はありませぬ

◎それで値段は大變お安く木炭の三分の一で充分間に合ひます

◎ドンナニ喰はずさらいの人でも一度使へば必ず御氣ニ召すのが此の玉炭の特長です

値段ハ壹箱金一圓、個數ハ約八百個内外  
お申越次第見本を持參してご覧に供しますから申越下さい

平町前(電話二二七番) **阿部石炭商店**

**共濟病院** (電話六四一番)

獨逸シームス、ユニバーサル、ヘリオドル

× **光線新設** 診断治療(毎日) 難波 睦

主任 醫學博士 難波 睦  
主 醫學博士 川添 正道  
副院長 醫學士 五十嵐 雄二  
院長 醫學士 伊吹 彪二  
内科部長 醫學士 伊吹 彪二  
外科部長 醫學士 鈴木 憲介  
整形外科 レントゲン科專門  
産婦人科 女子泌尿科  
産婦人科部長 五十嵐 雄二  
醫學士 川添 正道  
醫學博士 賀本 孝平  
本院 局長 賀本 孝平  
本院 主 賀本 忠治 (電話七二番)

### 神に祀られた…… 荒翁の傳記を刊行

郷黨の尊崇愈々深く  
此程刊行會組織さる

湯本馬藩士にして幕末の計  
數學者として知られ晩年  
農部長を辭して後衆望を擔  
つて平町々長に就任し荒  
翁八翁の

略傳は 既記の如く  
あなが生前翁の惠澤に浴  
した人々より相馬郡上眞野  
村上杉窪大谷堰の關係者等  
は一大報徳碑を建、翁の  
偉功を記念し猶ほ又鹿島町  
南右田に於ては南右田神社  
として奉祀し深く尊崇して  
石の程であるから直孫佐々  
木龍若氏よりの贈位

請願に 對して、鴻  
恩枯骨に及ぶであらう事を  
信せられて居るが更らに故  
人の知己門人等は翁の面影  
を世に紹介すべき傳記が未  
だ表れて居ないのを遺憾と  
し遺族並びに關係者相諮詢  
し荒翁傳記刊行會を組織  
された由にて會務の分擔

(會長)田原口瑛藏(會計)  
多田平慶(資料蒐集)佐々  
木龍若、皆川干城、佐藤  
丹市、本幡次郎、多田平  
慶、齊藤篤舟(編輯)佐々  
木龍若、多田平慶、齊藤  
篤舟

の諸氏に決定し事務所を相  
馬郡鹿島町役場内に置く事  
になつた尚ほ故人の書簡遺  
墨等を所持する方々は此  
際參考資料として御提示さ  
れたこといふ

### 龜裂原因を 發表しない 傾城トンネル

過般龜裂を生じや常磐線經  
湯本驛間傾城トンネルは直  
ち復舊工事をなすこのご  
ろ完成したがその龜裂原因  
については既報の如く傾台  
鑛山監督局で詳細調査を遂  
げ鐵道當局では鑛山監督局  
の調査回答をまちあぐんで  
るが結局これが原因の結  
果發表は永久にしないら  
し観測さる

### 平青年協議 今晚七時から

平青年團にては本日午後七  
時より平銀行樓上に於て幹  
部會を開き活動寫眞開催に  
關する件、町民體育大會開  
催に關する件、郡聯合體育  
大會に關する件等に就き具  
體事項を協議する由

### 紫雲英の 作付を奨勵

石城郡農會では目下紫雲英  
の播種時に際し各方面より  
優良種子を購入して希望者  
に實費配付をなすつゝある  
が同農會調査による昨年度  
郡下作付反別は四百四十八  
町八反歩にしてこれが收穫

貫数は二百四十一萬四千七  
十九貫といふ巨額に達し尚  
作付反別の最も多きは入遠  
野村の六十七町歩最も少  
きは高久村の二反歩なるが地  
質その他の關係から全然作  
付せぬは豊間、鹿島、小名  
濱等なべて同農會では今後  
これ等町村に對して充分調  
査研究を重ねた上作付の奨  
勵をなす方針であると

### 平町の奉祝電燈飾 東部電力が大奮發

東部電力平營業所では御大  
典の奉祝を一層盛大にする  
ため夜間の裝飾その他に供  
給する電燈電力を割引すべ  
く本社に交渉する一方設備  
用具一切準備に着手した  
が平町三丁目白銀町では三  
日間町内の兩側は紅白の幕  
を張りイルミネーション式  
に點燈せんと會社側に向つ  
て既に交渉を開始した

### 五分制限 北海道九州炭 に壓迫さる

常盤各炭礦では聯合會の幹  
別消化不良を起した譯で  
ありませんが、ところが近世  
になつて白米を食ふ様にな  
つてから胃腸の機能は玄米  
を消化するに適さない様  
になつたので下痢などをしま  
す、食品分せき表で見ると  
玄米は一番營養素が多いの  
ですが以上の理由で不適當  
です、表面の薄皮さへとれ



米は何かいゝか  
常食として玄米はい子米半  
つき米のうちいづれが理想  
的であるか、昔の人は玄米  
を常食にしてゐたのです

### 小川江筋修理 廿六日から斷水

石城郡小川江筋の秋季修繕  
工事は来る二十六日から斷  
水して着工約二ヶ月で完成  
する豫定だが修繕箇所は平  
窪村幕ノ内一ヶ所神谷村中  
神谷一ヶ所草野村馬目二ヶ  
所である

### 平町を中心 國道の改修

湯本四倉間を  
平町を中心とした湯本、四  
倉間國道約十三哩は自動  
車交通頻繁のため道路の破  
損甚だしく最近では規定の  
スピードも出せぬ有様で危  
險甚だしいので平土木監督  
所ではこの程十三哩全長に  
亘り約四千圓を投じて路面  
の改修に着手したがこれを  
完成すれば湯本、四倉間の  
國道は當分交通の危険を除  
去される譯であるが平土  
木監督所では起債認可あり  
次第徹底的大改修を行ふと  
す

### 古遠州流初許 古遠

州流牛花及び小原盛花の  
教授高橋さく子女史(平町  
白銀町平劇場前)門下中此  
程生花の初許授與されたる

### 募集

文藝其能投稿  
を募集します  
は左記の方々である  
吉田キミ、山田喜子代、  
川崎トク、鹽坂ソノ、門  
馬良子、高橋榮子、鈴木  
ヨネ、阿部貞子、松波隆  
子、熊谷かほる

### 吉田翁の建碑除幕式 山崎委員長の式辭

既報明治初年の警城の儒  
者故吉田景雲翁の建碑除  
幕式は十二日午前十時よ  
り湯本町大字關船諏訪神  
社境内に於て舉行、委員  
長山崎三郎氏以下百數  
十名参列碑は令孫太平嬢  
の手で依つて除幕され多  
數の祝辭朗讀あつたが山  
崎委員長の式辭は左記の  
如くである

嗚呼先生逝きて茲に十四年  
歲月流るゝに隨ひ景雲の念  
愈々切なるを覺ふ殊に昨昭  
和二年は時恰も先生の十三  
週忌に相當するを以て此の  
機を逸せず聊か報恩顯彰の  
微衷を效さんと欲し舊門生  
胥ひ謀り建設委員三十六名  
を擧げ建碑の企圖に出づ爾  
來一年有餘委員諸氏の奔走  
と多數同感諸君の贊襄とに  
依り斯く竣成を告ぐるに至  
りしは誠に感喜に堪はず

故恩師景雲吉田先生の建碑  
竣工を告げ茲に本日ヤトし  
て除幕の式を擧ぐるに當り  
舊門生諸君並に來賓各位の  
光臨を恭ふせしは最も欣幸  
とする所たり

先生は夙に徳川幕府の碩儒  
林家の門に入り其後學堂に  
學び多年筆雪研鑽書を始

め博く史傳諸子の書々涉獵  
し造詣蘊蓄深く其堂奥に入  
る業成りて舊平藩藩佐賢堂  
の教授となり尋て舊湯長谷  
藩藩政道館の教頭に招聘せ  
られ明治五年廣藩後關船に  
屏居し私塾を開く全六年初  
めて小學校の創設せらるゝ  
や隣村下湯長谷小學校長に  
聘せられ勤続十年間に渉る  
全十五年三月菊多警備警城  
三郡立平青年校教諭に聘せ  
られ全十七年八月全校の縣  
立平中學校となるや之が教  
諭に任せられ其後私立平英  
學校と改まるや續て勤務全  
廿一年引退關船に屏居私設  
明德館を開く遠近先生の高  
風を仰ぎ門に入り教を請ふ

者に參集す、爾來贊を賜  
ふるに至るまで終始一貫專  
ら地方子弟の教養に努め薫  
陶感化の効力勤からず其教  
を受けし徒實に三千亦盛な  
りと謂ふべし

惟ふに明治の初年に當り  
警城に在りて碩學鴻儒と  
仰がれしは神林、室、大  
須賀、衣笠、眞木及先生  
の六大家となす就中地方  
教化の上に終始貢獻せら  
れしは先生を以て其最と  
す。由來漢儒の弊は古と  
尊び今を卑して頭迷固陋  
迂遠に陥り易きに在り先  
生學は朱子流たりと雖も  
心は王陽明學を崇奉す故  
に其教ゆる所は修身濟家  
を本とするも彼の徒らに  
文學に捉はれ章句の拘泥  
すして識見卓越能く各個